

# 市長に聞く

「ヨイヨイ、ヨイヤサ

市民とともに 第60回おはら祭」

■今年のおはら祭は盛況でしたね。市長のおはら祭にまつわる思い出をお聞かせください。

おはら祭が始まったのは、1949（昭和24）年11月15日なのですが、わたしは同年10月生まれです。おはら祭が同じ歳月を経て、今回記念すべき60回の節目を迎えたことを、とても感慨深く思います。

私がおはら祭に初めて参加したのは、市役所に就職した間もない昭和50年ごろで、市役所の踊り連の一員として夜まつりで踊ったときです。振る舞



市長 森 博幸

い焼酎を飲んで、氣勢をあげ、同僚たちとワイワイ練り踊りましたね。懐かしい思い出です。

市長に就任してからは、夜まつりでは踊り連の皆さんに振る舞い焼酎を配り、本まつりでは親善大使の皆さんたちと一緒に踊ったり、まつり交流パレードに参加したりと、祭に参加する皆さんと一緒に毎年若いころと同じ気分を楽しんでいます。

■おはら祭の魅力はどのようなところだとお考えですか。

おはら祭の魅力はまず何といっても総勢2万人を超える踊り手が、おなじみの郷土民謡「おはら節」や「鹿児島ハンヤ節」そして、渋谷・鹿児島おはら祭で踊られている「渋谷音頭」の曲にあわせて、天文館一带を埋め尽くす総踊りの姿と熱気ですね。沿道の観衆も自由に踊り連に飛び入りし、一体となって盛り上げる、まさに参加者一人ひとりが主役になれる祭です。

二点目は祭が多様な内容で構成されていることです。夜まつり、本まつりの総踊りをはじめ、マーチングやまつり交流パレード、市内の伝統芸能の披露のほか、おごじよ太鼓の競演、さらには、ダンス「オハラ21」など、多彩なパフォーマンスが繰り広げられます。鹿児島島の秋を彩る一大イベントであり、南九州を代表する見ごたえのある内容が醍醐味と考えます。

■おはら祭に今後、期待されることをお聞かせください。

今回は3月に九州新幹線が全線開業後初めての開催となりました。60回記念イベントとして開催した東京デイズニーリゾートのスペシャルパレードは大人気で、多くの市民や観光客の皆さんに楽しんでいただきました。また、鹿児島中央駅前アミュ広場に「おはら広場」を設置して祭の熱気とにぎわいの輪を広げるなど、60回の節目にふさわしい華やかな祭となりました。

還暦を迎えたおはら祭が、今後も南九州最大の市民によるふるさと祭としてさらに大きく発展を続けてほしいと願っています。本市全体が活気づき、これからも多くの人に親しまれ楽しんでいただける祭となるよう市民全体で盛り上げていきたいです。



60回記念に華を添えた東京デイズニーリゾートのスペシャルパレード